

エイジフレンドリーな事業場になっていきますか：和歌山県との比較

独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山産業保健総合支援センター 所長 ● 竹下 達也

エイジフレンドリーとは「高齢者の特性を考慮した」を意味する用語で、WHOや欧米の労働安全衛生機関で使用されているようです。

ここで質問です。

「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)の名前も内容も知っていますか。知らないって！でも、大丈夫です。和歌山県での調査でも、事業場の認知度は10%でした(2021年)。

では、「高齢労働者が安心して安全に働くための職場環境の整備等に要する費用を補助する制度(エイジフレンドリー補助金)の名前も内容も知っていますか。これも知らないって！大丈夫です。和歌山県での調査では、事業場の認知度は7%でした(2021年)。でも、「知らないな」と思った方は、早速検索してみるのはいかがでしょうか。

近年55歳以上の就業者(高齢労働者)数は増えつつ増えており、あなたの会社にもきつといらっしやることでしょうか。このような方は労働災害のリスクが高いため、安心安全に働けるために、事業者は積極的に職場改善に取り組むことが望まれています。

そこで、あなたの職場がエイジフレンドリーになっているかどうかチェックしてみませんか。

- ①夜勤(22時から5時の勤務)をなくしているか、やむを得ず夜勤をさせる場合には夜勤形態や休日に配慮をしていますか。
- ②フレックスタイムや在宅勤務、病院に行くなどの時間をとりやすくするための時間単位年次有給休暇などの自由度の高い就業制度を実施していますか。
- ③年齢だけでなく、個人の特徴を把握して、作業内容や強度、作業時間などの調整を行っていますか。

④作業者本人の意向、経験をふまえて、職場配置を行っていますか。

⑤作業場だけでなく、通路・階段なども適切な照度が確保されていますか。

⑥足場・はしご・脚立等を使用する場合には、安定したものを使用させていますか。

この6項目は、和歌山県内の事業場では半数以上が「ほぼできている」と答えています(2021年)。あなたの会社でできていないなら、対応をお願いします。

もう一つのチェックです。

○具体的な数値や色彩などを用いて、取り扱う物の重さが一目でわかるようにしていますか。

これはいかがでしょうか。和歌山県内の事業場では13.5%でした(2021年)。簡単なことですので、ぜひ行うように話し合ってみてください。

このような対策の実施率は、事業場で仕事している高齢労働者の割合によって違うのでは、と感じた方は、和歌山産業保健総合支援センターの調査研究の報告書(資料1)を確認してみてください。

いやあ、事業場の規模によって違うものだ、と感じた方は、産業衛生学雑誌の論文(資料2)を確認するのはいかがでしょうか。

エイジフレンドリーな職場は、すべての労働者にとっても望ましいものであり、だれもが働きがいを感じながら安全に働けることになります。そのため、職場改善の効果は労災防止だけでなく、生産性の向上や業務の効率化に結びつく可能性もあります。高齢労働者を活かせる事業場は成長すると考えています。

そうそう、お読みいただいている方も、体力面などで、「若い頃とは違う」という自覚も必要です。

参考資料

資料1 : <https://wakayamas.johas.go.jp/wp/wp-content/uploads/2022/11/8bd331e0417dbd3a32f919fa88d77a1c.pdf>

資料2 : https://www.jstage.jst.go.jp/article/sangyoeisei/65/6/65_2023-002-E/_pdf/-char/ja